

各位

党派を超えて国家的課題を追求する

## 公益財団法人協和協会 時代を刷新する会

両団体会長代行 岸 信 夫  
両団体理事長 半 田 晴 久  
教育部会長 若 林 克 彦  
専務理事兼事務局長 清原 淳平

### 教育部会のお知らせ (第325回)

日時 平成28年5月17日(火) 午後1時半～3時半

場所 衆議院第一議員会館 地下1階 第5会議室

千代田区永田町2-2-1

◆国会議事堂前駅(丸の内線・千代田線)①番出口より下車2分、永田町駅(有楽町線・南北線)①番出口より下車5分。当日、午後1時より、議員会館玄関にて、通行証を差し上げます。時刻前に到着された方は、恐縮ですが、金属探知機通過後、受付脇のロビーにてお待ちください。会議開始後にお越しの方は、受付に「第5会議室に行きたい」旨、お伝え下されば、お迎えにまいります。

議題 1、最近の教育問題について思う

挨拶 若林克彦部会長(国土館大学元学長)

2、技術者教育における国際化

— 明治大学理工学部及び同機械工学科の紹介 —

解説 納富充雄明治大学理工学部教授

報告

去る4月22日開催の第324回教育部会は、若林克彦部会長が議長を務め行われました。まず、清原淳平専務理事より、当日の講師・福田弥夫日本大学危機管理学部初代学部長の経歴紹介がありました。次に、若林部会長より開会挨拶がありました。現在歯学部のあり方が問題となっている。歯科医の志望者は多いが、一方で臨床実習の回数が少なく、深刻な問題となっている。経験をどう積ませるかが今後の課題になりそうだ。

次に本日の講師・福田教授より、「日本大学危機管理学部が目指すもの」と題して以下の趣旨の解説がありました。危機管理学部は、本年4月より新設された。昔は、危機管理を研究する、有事に備えるなどと言うと、イコール戦争などと捻じ曲げる勢力があり、タブー視されていたが、平成7年の阪神大震災、地下鉄サリン事件を機に危機管理の研究が時代の要請として求められるようになった。危機管理学といっても難しい学問ではあるが、「今役立つことは、明日役に立たなくなる」という精神のもと、学生に物の考え方、課題発見を身につけてもらいたい。法を用いて紛争や問題を解決する能力と、危機管理を両立させるカリキュラムを考えている。専攻は、災害、犯罪・テロ、国際紛争や環境、情報セキュリティ、の4分野である。4年間に内容を圧縮しており、相当の学力が要求されるし、学生にも予習を求めるつもりだ。しかし、1年次の夏休みまでは高校のおさらい、4年次は就職活動で精一杯、という状態で、実質専門教育に使えるのは2年半である。また、学力低下が巷間言われているが、特に学生が自分で課題を探す学力が低下しているようにも感ずる。他に日本の大学教育の問題として感じているのは、専攻を決めるのが早すぎて、他に移ることが難しくなってしまうことだ。欧米の大学を見ると途中で専攻が変わっていく、傍系学問も自由に取れるなど、柔軟である。そして、定員の縛りが厳しすぎるといっても柔軟な学校運営の障害になっているようにも感ずる。今回の熊本地震では、危機時の被災者のコミュニケーションが特に重要と分かった。若者がインターネットで情報発信して避難所に物資が届く一方、それが出来ない高齢者はどうするのか、そしてボランティアの教育も今後の課題である。

その後の意見交換では、○過去に「災害時管理士」という資格を考えたが、何処でどういう課目を教えるかがむずかしかった。日大が具体的な講座・単位を設け、「危機管理士」という資格を考えていることは賛成で、ぜひ実現してもらいたい、等々の意見が出ました。

★レクチュアにつき、資料代千円に御協力御願い申し上げます。

次回、5月17日（火）の教育部会に

出・欠（いずれかに○印）

事務局宛 F A X 03-3507-8587

御芳名 \_\_\_\_\_

貴方様の F A X \_\_\_\_\_

電話 \_\_\_\_\_

テロ対策への警備から、非会員で参加希望の方は、必ず、前日までに事務局へ御連絡下さい。

当日連絡先 080-8836-6203 又は 080-9292-2620

HP <http://www.jidaisassin.jp>

Eメール [kiyohara@jidaisassin.jp](mailto:kiyohara@jidaisassin.jp)